

平成 18 年度設備投資計画

過去最大の総額 39,086 百万円を投入

< 重点項目 >

鉄道事業

「ミュースカイ」18 両の新造

SF カードシステムの利用範囲拡大

バリアフリー化を始めとした駅の改良

開発事業

牛島再開発事業と名鉄百貨店本館・セブン館・メルサ館の 3 館一体化改装工事への投資

名古屋鉄道は、空港アクセス専用特急「ミュースカイ」の新造や SF カードシステムの利用範囲拡大のほか、バリアフリー化を始めとした駅の改良など、鉄道基盤整備を中心とした平成 18 年度の設備投資計画をまとめました。

平成 18 年の総投資額は 39,086 百万円で、昨年と比較すると鉄道事業で約 9,300 百万円、開発事業で約 9,700 百万円増加しており、設備投資額としては過去最大です。これは、「ミュースカイ」18 両の新造のほか、SF カードシステムの利用範囲拡大や牛島再開発事業など大型プロジェクトへの投資が集中するためです。

今回は重点項目として、「ミュースカイ」の新造と 4 両組成化に 3,690 百万円、SF カードシステムの利用範囲拡大に 8,140 百万円、バリアフリー化を始めとした駅の改良に 1,240 百万円、牛島再開発事業への負担金拠出や名鉄百貨店本館・セブン館・メルサ館の 3 館一体化改装工事の推進などに 16,780 百万円を投じます。

事業別設備投資計画額の対前年比較は以下のとおりです。 (単位 百万円)

事業	平成 18 年度	平成 17 年度	前年との差額	(参考) 平成 16 年度
鉄道事業	21,370	12,090	9,280	27,109
開発事業	16,780	7,058	9,722	4,958
その他	936	791	145	2,094
総額	39,086	19,939	19,147	34,161

() 平成 16 年度の数値の内、「その他」には「自動車事業業分」1,481 百万円を含む

鉄道事業[21,370 百万円]

空港アクセス専用特急「ミュースカイ」18両の新造と4両組成化による輸送力増強に3,690百万円、SFカードシステムの導入やバリアフリー化を始めとした駅の改良などのサービス改善工事に10,400百万円、踏切保安設備や土木・電気設備の改良など旅客安全・運転保安工事に7,280百万円の計21,370百万円を鉄道事業に投資し、安全確保・サービス改善を図ります。

1 輸送力増強(3,690 百万円)

(1) 2000系車両「ミュースカイ」の新造と4両組成化

- 空港アクセスの輸送力向上を図るため、2000系「ミュースカイ」を18両新造し、現在の3両組成10編成から4両組成12編成に増備します。これにともない、一編成あたりの乗車定員が138人から181人に、また荷物置場も6箇所から15箇所にそれぞれ増加します。
- 4月17日(月)から新造車2編成8両の運行を開始します。順次既存の3両組成を4両組成にする工事を行い、12編成全ての4両化が実現するのは本年7月上旬の予定です。



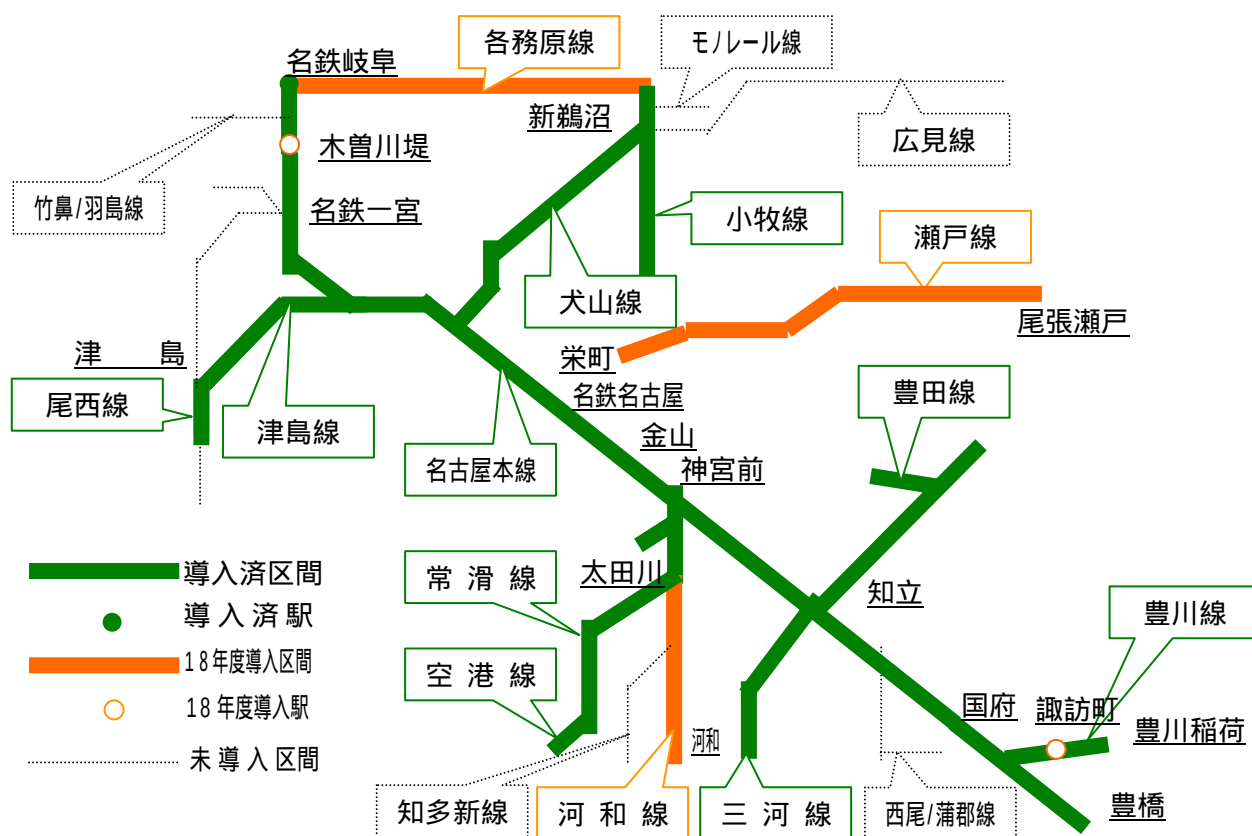
4両化した新造ミュースカイ

2 サービス改善工事(10,400 百万円)

(1) SF カードシステム導入と駅集中管理システムの整備(8,140 百万円)

- 共通 SF カードシステム「トランパス」を瀬戸線、河和線及び各務原線などに導入します。あわせて駅集中管理システムの整備も行います。これにより平成 18 年度末時点では、SF カードシステムは全 281 駅のうち 211 駅で利用できるようになります。

【SF カードシステム導入状況】



(2) 駅務機器の近代化など(1,020 百万円)

- 現行のボタン式自動券売機の代替として領収書発行機能付きのタッチパネル式自動券売機を 40 台導入するほか、名鉄名古屋駅などで改集札機 45 台を更新します。このほか、無人駅のインターホンや自動精算機、駅の業務掲示類などの更新も実施します。

(3) バリアフリー化を始めとした駅の改良(1,240 百万円)

- 今年度は新木曽川駅など 13 駅で段差を解消するなどのバリアフリー化工事を実施します。これにより平成 18 年度中には、交通バリアフリー法対象駅 72 駅（全 281 駅）のうち、平成 17 年度までに整備を終了した 24 駅を含む 37 駅が整備されることになります。残る 35 駅についても、昨年末に策定した「バリアフリー化 5 カ年計画」に基づき、平成 22 年度までに順次整備する予定です。

駅名	エレベーター	多目的トイレ	階段手すり	その他
名鉄岐阜	○	○	○	詳細は未定
新木曽川	○(3 基)	○	○	
矢作橋	○(2 基)	○	○	
栄町	○(1 基)	○	○	
大森・金城学院前	-	○	○	下りホームに改札口新設
三郷	-	○	-	下りホームに改札口新設
三好ヶ丘	○(3 基)	○	○	
道德	○(2 基)	○	-	
南加木屋	-	○	○	上りホームに改札口新設
巽ヶ丘	-	○	-	
知多武豊	-	○	○	下りホームに改札口新設
徳重・名古屋芸大	○(2 基)	○	○	
柏森	○(2 基)	○	○	橋上駅化(下記参照)

は自治体と調整が整い次第施工する予定

犬山線柏森駅の橋上駅化

- 周辺自治体が進める柏森駅周辺整備事業の一環として、同駅の南口と北口を結ぶ自由通路が設置されるのに伴い、柏森駅の駅務室や改札口を橋上化する工事を昨年に引き続き実施します。駅構内踏切を解消し安全性を高めるとともに、橋上駅舎と上下各ホームを結ぶ車いす対応エレベーターを計 2 基設置します。竣工は平成 19 年 3 月の予定です。



柏森駅完成予想図(南口側)

3 旅客安全・運転保安工事(7,280 百万円)

(1) 安全・保安対策<1,400 百万円>

- 常滑線において、一般車両と走行速度が異なる 2000 系「ミュースカイ」の曲線通過速度超過防止対策として、パターン制御の ATS-P(自動列車停止装置)を導入します。
- 終端線過走防護対策として、新可児駅の車止めを強化するとともに、ATS を整備します。
- ニツ杵～新清洲間・須ヶ口～甚目寺間の信号及び駅構内の案内放送を自動で制御する PTC(自動運行制御装置)を須ヶ口駅に新設し、正確な列車運行管理を図ります。
- ホームからの転落対策として、駅係員や旅客が非常停止灯を作動させ、列車の乗務員に異常を知らせる列車非常通報装置を名電赤坂・名電長沢・矢作橋・宇頭・大里・奥田・島氏永・今伊勢・石刀・聚楽園の 10 駅に設置します。
- テロ対策として、金山及び神宮前駅の通路・自動券売機付近に防犯カメラを追加設置します。

(2) 検車場建設や車両の改良<1,120 百万円>

- 将来予定されている喜多山周辺鉄道高架化事業に先立ち、喜多山検車区を尾張旭に移転する工事を昨年に引き続き実施します。
- 列車運転士が線路支障を発見した場合に、付近を走行する他の列車に危険を知らせる列車防護無線を 26 編成に装備します。
- ホームから車両連結部への転落防止を図るため、車両固定連結部の車体側面に、車両転落防止幌を 10 編成に設置します。

(3) 土木施設の改良<1,020 百万円>

- 列車走行音や振動を軽減するため、空港アクセス路線の常滑線・尾張横須賀～西ノ口間のうち延べ約 8.3km でロングレール化を実施します。
- 犬山駅構内、富貴～布土間で耐久性に優れた PC 枕木に交換します。

(4) 電気施設の改良<2,290 百万円>

- 安定した電力供給を図るため、茶所・飛行場前・犬山の各変電所の改良工事をはじめ、沿線各所で高圧避雷器や高圧遮断器など電力設備の更新、き電線の増強・改良などを実施します。

(5) 踏切保安設備の新設・改良<400 百万円>

- 踏切事故防止対策の一環として、3 種踏切（警報機のみ）1 カ所を 1 種踏切（警報機・遮断機付）に格上げします。
- 視認性の高いオーバーハング警報機を 2 カ所に設置します。
- 踏切異常を運転士に伝える障害物検知装置を 2 カ所に新設します。
- 踏切遮断機を 99 台更新します。

(6) 立体化<1,050 百万円>

- 安全対策の推進と都市計画事業の一環として、引き続き 2 路線 2 カ所で立体化工事を実施します。

路線名	区間	距離	竣工予定
名古屋本線	本星崎～左京山駅間	2.3km	平成 19 年度
常滑線	大江～名和駅間	1.6km	平成 19 年度

開発事業 [16,780 百万円]

- 名古屋市西区牛島の再開発事業（「名古屋ルーセントタワー」の建設）の負担金を昨年に引き続き拠出します。
- 名鉄百貨店本館・メルサ館・セブン館の 3 館一体化改装工事に引き続き取り組みます。同改装工事では、各館建物周りの美観整備を図るため、一階部分ピロティ・エントランスの改修工事等を実施します。
- 名鉄ビルや名鉄バスターミナルビルなど当社所有ビルにおける設備や機器類の更新などを実施します。

その他 [936 百万円]

- SF カードシステムや駅集中管理システムに対応できるネットワーク容量にするため、駅や本社などを結ぶ社内 LAN「パノラマスーパーネット」の更新・構築や、職場内のコンピュータ機器類を更新するほか、セキュリティの強化を進めるなど、IT 環境の整備を図ります。
- 空調機器類の更新など、職場環境の改善に努めます。

以 上